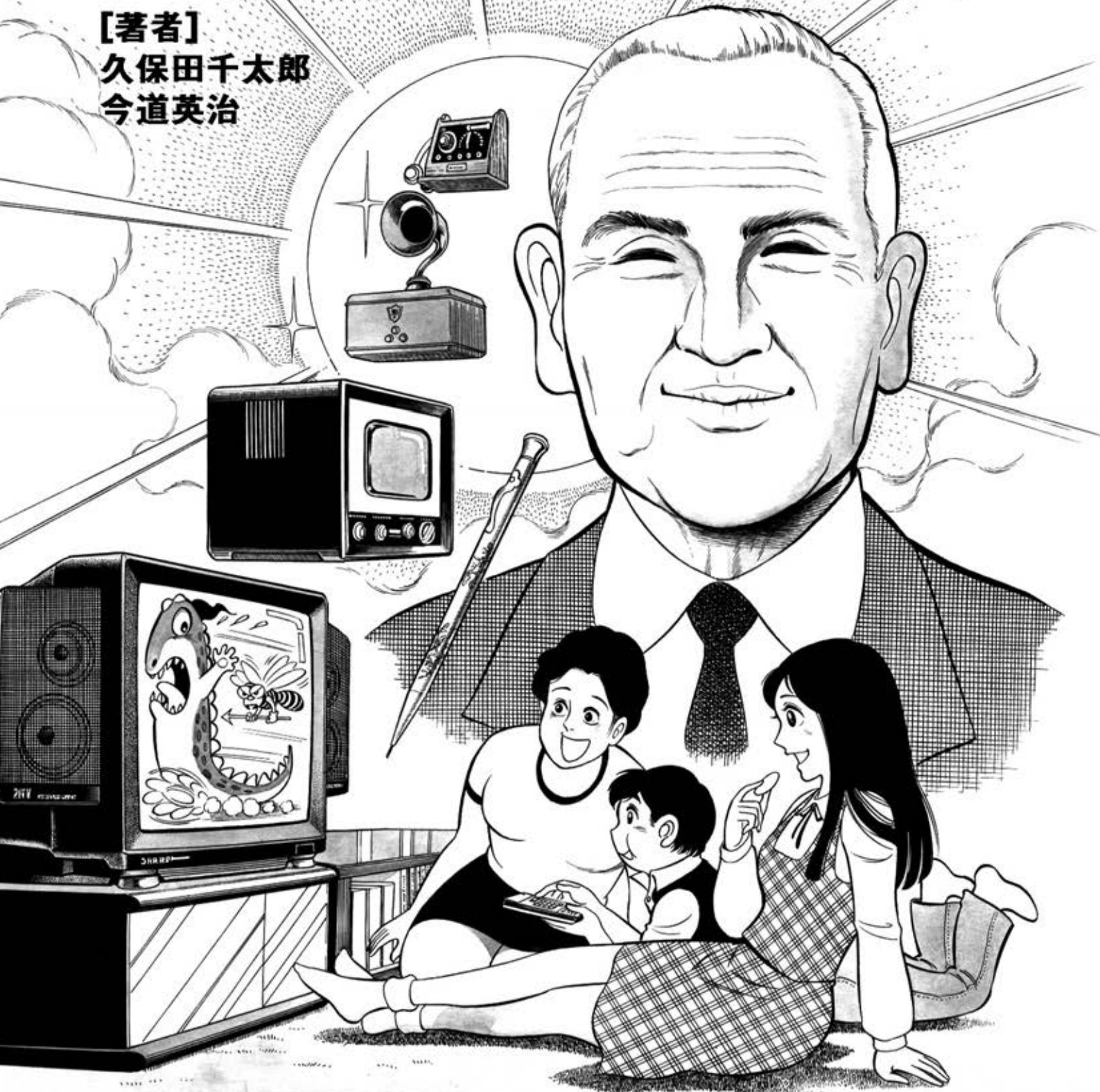


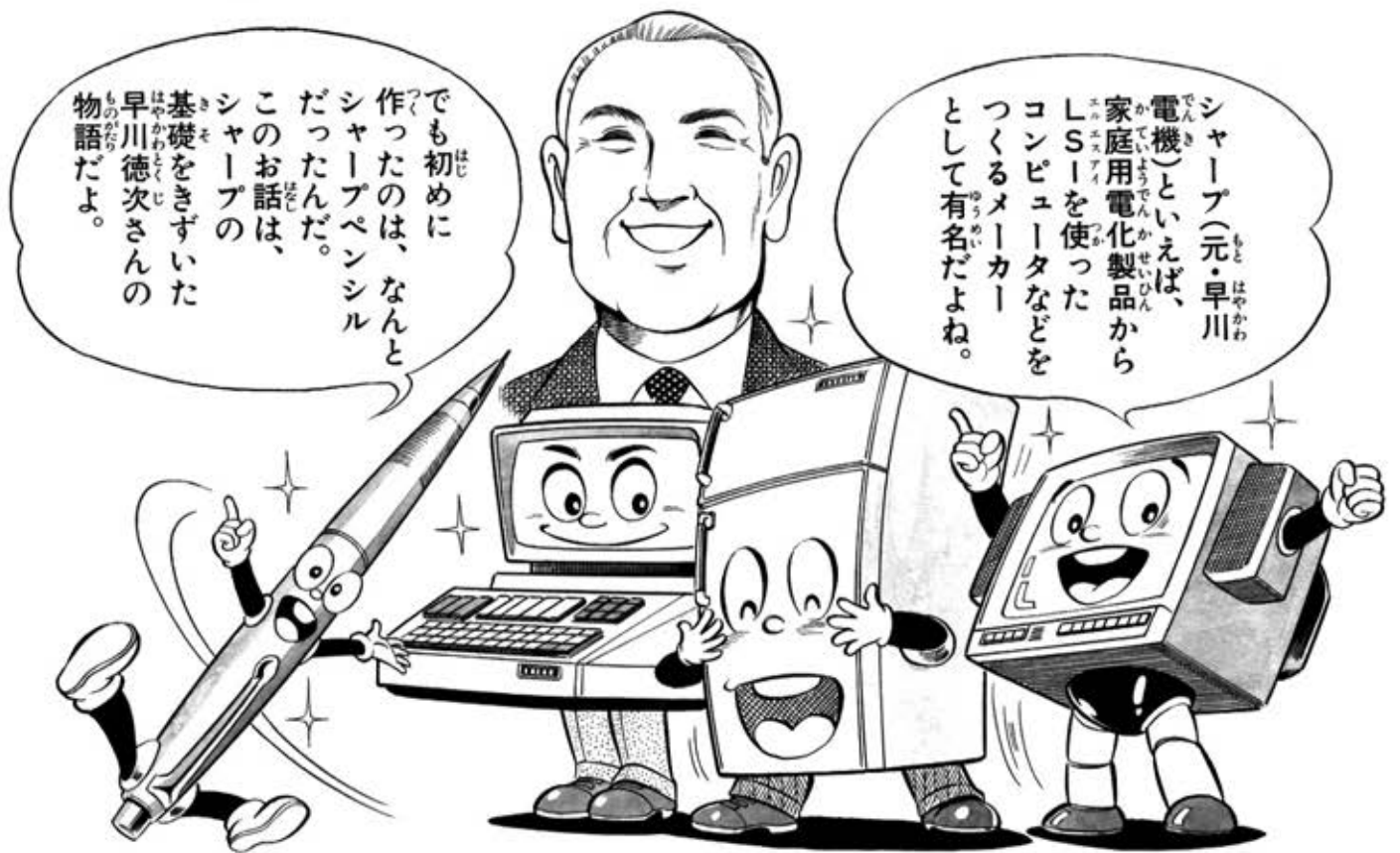
# ●//カーブ。ペンシル

はや かけ とく じ もの がた  
早川徳次物語

しゅつ ぽつ  
からの出発

[著者]  
久保田千太郎  
今道英治





※ 養母……育ての母。

参考資料「私と事業」早川徳次著（実業之日本社刊）より

その後、養父は再婚しましたが、つぎつぎと子どもができて家計が苦しくなると、二度目の母は、わたしにいくら当てるようになりました。





※年季奉公……年限を決めて、主人につかえ、仕事をする事。



じがね きんぞくせいひん がいりよう きんぞく  
※地金……金属製品の材料となる金属。

ある日、坂田店で...

たったこれだけかい!?

それで全部だよ...

ウソだ、かくしてろんだろ!

ちがうってば、継母さん。



いいかしろ!!

めしもろくに食べさせないで、たたきだしておいて、金をせびりにきたのか! 帰れ帰れ!!

ふん!



またくるからね!

ひどい女だ!

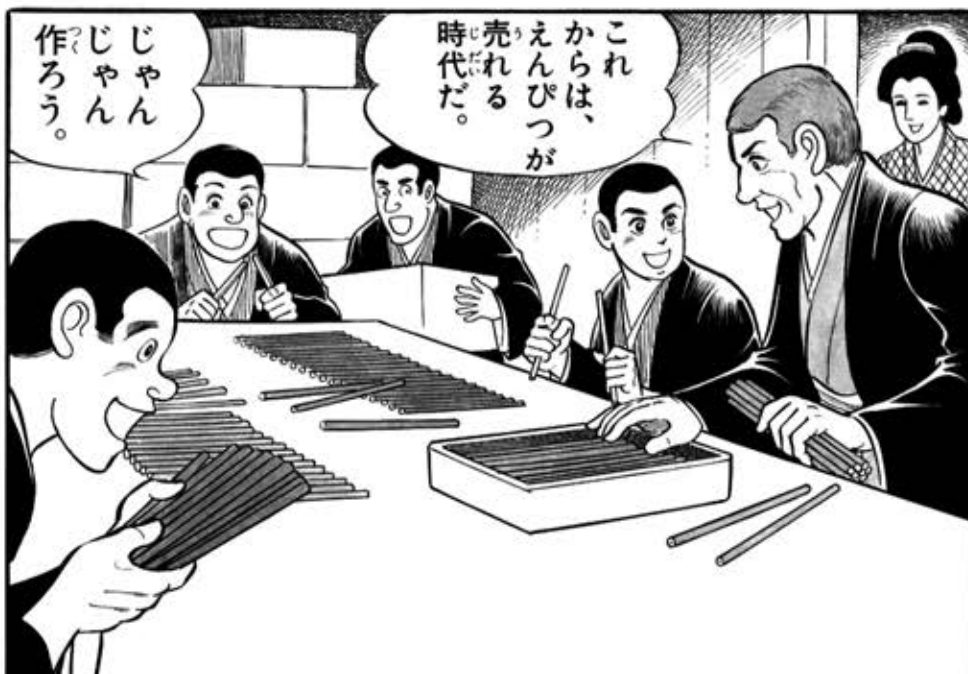
徳どん、りっぱな職人になつてみかえしてやんな!



明治三十八年、日本は日露戦争に勝つて、産業も発展しました。わたしも十六才になり、小僧から職人の見習いになったころ、坂田店ではえんびつを作るようになりました。

これは、からは、えんびつが売れる時代だ。

じゃん、じゃん作ろう。







そう…。  
実は  
いとこだっ  
たんだよ。

それを教えて  
くれたのは、  
小僧のころ  
地金を取りに  
いった日本橋  
の浅田さん  
でした。

浅田さんと  
ぼくが!?



明治四十三年、十八才に  
なつて、坂田から独立したころ、  
わたしに本当の父と兄弟が  
あることを知りました。



それに、今まで  
かわいそうで  
いえなかった  
が……、  
きみの  
本当の  
父母である  
早川政吉と  
花さんは  
きみが  
七才の  
ときに亡く  
なされた。

ええっ!?



徳次!

それはわたしの  
生涯で  
最高の日でした。  
そして、このほかにも  
長男の彦太郎と  
姉の静子がいることを  
知つたのです。



だけど、  
きみには  
兄姉がいる。  
政治さんと  
登鯉子さん  
だよ!







大正三年春、  
あたたかい  
家庭に  
あこがれていた  
わたしは  
文子と  
いう女性と  
結婚  
しました。



やがて明治も  
終わり、大正元年  
わたしは小さな  
工場をつくり、  
ベルトのバックル  
などをつくって  
がんばりました。



このモーターを  
使って、どんな  
大量生産したい  
ものがあるんだ。

なんだい？

その後、兄弟で力を合わせて  
「早川兄弟商会」という  
会社をつくり、当時は  
めずらしいモーターを入れ  
ました。

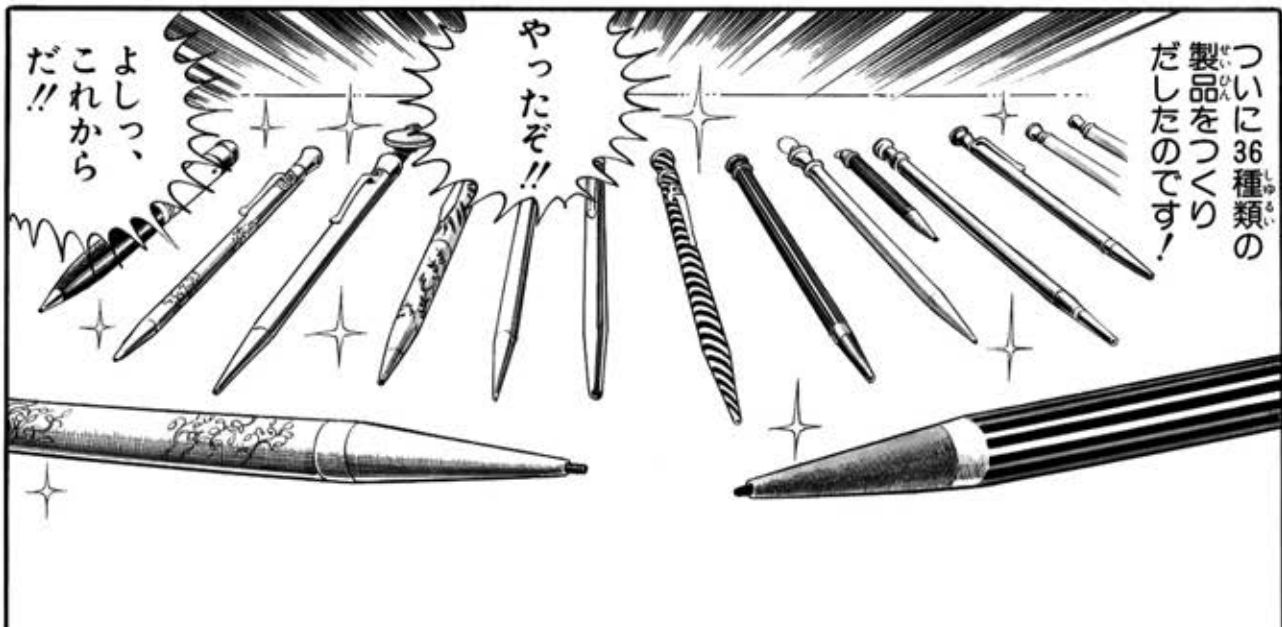


昔ね…、  
坂田で  
親方が  
不良品を  
出して、  
苦労した  
ことが  
ね…。



くり出し  
えんぴつ！  
ナイフでけずら  
なくても、  
しんだけ  
取りかえて  
書ける  
便利なやつさ。

くり出し  
えんぴつ？









うわあっ!!



こうして、大正六年からシャープペンシルの売り上げは、どんどのびはじめ、会社をつくつて八年目には早川兄弟商會は、大会社に成長し、このまま現在のシャープ、早川電機の基礎となるかに見えましたが…。



地しんだーっ。

にげろー!!

今までけいけんしたことのない大地しんのためにだれもがすべてを失つてしまいました。大正十二年、関東大しん災でした。



わたしも妻と幼い二人の男の子を死なせ、多くの社員も失い、工場や自宅も焼けてしまいました。



この関東大しん災は、死者・行方不明者約十万人、焼けたり、こわれた家は七十万戸におよぶ、史上空前の大地しんでした。



……いつまでも悲しんではいられない。  
わたしは大阪へいこうと思う……



大阪……!?



きみたちはどうする？



実は、今までシャープペンシルを販売してもらっていた、大阪の日本文具に二万円の借りがあつたんだが……。

その日本文具から、シャープペンシルのつくりかたを指導してくれるなら、わたしたちを社員として引き受けてもいいと……

※二万円…現在のお金になおせば、1千万円ぐらい。



おれたちの家だー。

大阪では親せきの石原時計店の久之助さんのお世話で、家を借りました。

せまいけどがんばってや……。

はい。



早川さんについていきます。

大阪へつれていってください!!

ありがとうございます……。

ガツシユ



NNNNNN



せまいな……。

しかたないだろ。

あしたから仕事だよ、早く寝なさい!

足がくせえ……。



大阪の人にとかくいわれたくないという江戸っ子の意地から、みんなよくたえて、がんばりました。



ここはこうしないと……。

あんた、やってみなはれ。

日本文具の工場で、さつそくシャープペンシルのつくりかたの指導がはじまりました。



大正十三年  
八月



もう  
だいじょう  
ぶだ……

熱心な指導の結果、  
わたしがいなくても  
工場はやつていけるようにな  
りました。



残念  
だけど、  
きみたちは  
日本文具で  
がんばってくれ。

みんなにも  
ついてきて  
もらいたいが、  
とても  
いままでの  
ような  
給料は  
はらえない……



わたしは  
日本文具を  
やめて、独立  
するよ。



結局、  
川本君ら、  
三人がついて  
きてくれる  
ことになり、  
ささやかな  
工場をたてて  
再出発する  
ことになり  
ました。



給料はいいから  
つれていって  
ください。  
おれたちは  
早川さんと  
仕事  
したいん  
です！



他人より  
一歩先を  
行くような、  
新製品を  
開発しなければ、  
事業は成功しない。

はやく、  
新しい事業を  
見つけ  
なければ  
だめだ。

しかし、シャープペンシルの  
つくりかたの権利は  
日本文具に残してきたので、  
万年筆の金具やクリップの  
製造しかできませんでした。





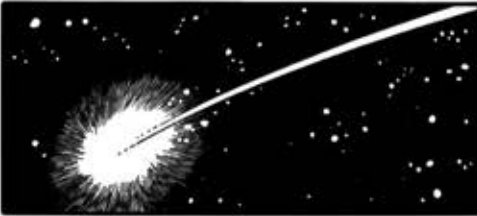
早川金属工業  
研究所

クモの巢の  
ような  
コイルは  
なんで  
しよう。

わからん。  
とにかく  
理屈ぬきで  
これらと  
同じ部品を  
作ってみよ  
う！



とはいえ、  
電気のことなど  
知らない  
わたしたちが、  
手さぐりで  
部品をつくるの  
ですから  
たいへんです。



翌大正十四年二月、  
わたしたちは  
やつとの思いで  
小型鉱石  
ラジオセットの  
組み立てに成功  
しました。



そして六月、  
東京に続いて  
大阪の放送局から  
最初の電波が  
流されました。

どうで  
す？



聞こえ  
ますか!?

しーっ。





やった〜  
大成功だ!!



こちらは  
大阪の  
ラジオ放送  
……。

おおっ、  
聞こえる、  
はつきり  
聞こえる  
ぞ!!



この  
ラジオは  
国産  
第一号だ。  
シャープ  
ペンシルに  
ちなんで、  
シャープ  
ラジオと  
名づけよう。



シャープラジオは、  
売りだしてすぐ  
とぶように  
売れました。  
いくら  
つくつても  
まにあわない  
ほどでした。

わーい、  
ラジオが  
きけるぞ。



月産一万台とも  
なると、人手を  
ふやしても足りません。  
日本文具にいた  
東京からの仲間も、  
いつしか全員わたしの  
もとへ帰り、事業は  
再び活気にあふれました。



翌年も  
ラジオの  
売れゆきは  
好調で、  
新工場を  
たてるほどに  
なりました。



その年のくれ、  
わたしは妻子という女性と  
再婚し、  
失った家庭も  
とりもどし  
ました。



うむ……。  
鉱石ラジオの  
時代は  
すぐに終わる。  
これからは  
イヤホン  
なしでも  
多くの人  
が一度に  
聞ける  
真空管  
ラジオの  
時代だ。



しかし、わたしは  
まだ満足  
できません  
でした。  
それ……。  
アメリカ製の  
真空管  
ラジオ  
ですか！



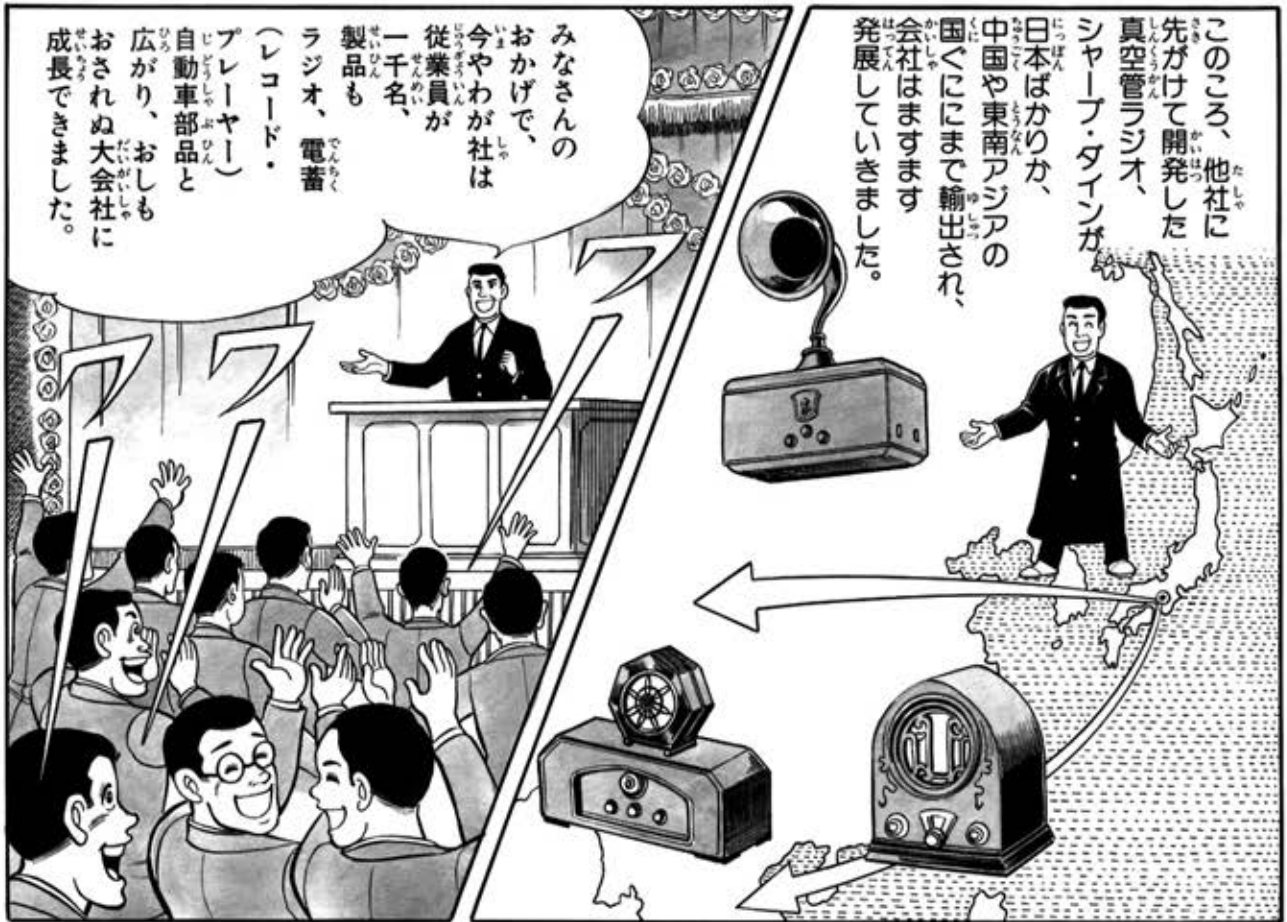
そう……。  
その努力を  
わすれては  
事業は  
発展しない。



「他人より  
一歩先を行く  
新製品の  
開発」ですね。



その年のくれ、大正天皇がなくな  
られ、年号は昭和になりました。  
ところが、昭和二年から三年に  
かけて、急に不景気になり、  
ラジオ業者もたくさん  
倒産しました。  
でも、わがシャープだけは  
次つぎと新工場を建て、  
生産をのばしていくことが  
できました。



このころ、他社に先がけて開発した真空管ラジオ、シャープ・ダイニング、日本ばかりか、中国や東南アジアの国々にまで輸出され、会社はますます発展していきました。

みなさんのおかげで、今やわが社は従業員が一千名、製品もラジオ、電蓄（レコード・プレーヤー）自動車部品と広がり、おもしろい大会社に成長できました。



そして敗戦後の数年間は、だれもが食べるためと立ち直るために必死でした。



しかし、よるこびもつかの間、昭和十六年、日本は恐ろしい第二次世界大戦に突入し、わたしたちは軍の命令で、五年間、無線機をつくらされました。



わたしたちもラジオの生産を再開しながら、新しい挑戦をはじめました。

みんな、きてごらん。





一方ではいつも  
後ろをふり  
かえり、  
弱い立場の  
人を  
わすれない  
ようにして  
きたつもり  
です。



幼くして苦労したわたしは  
成功するために、他人より  
一歩先を行くを信念に、  
新しい挑戦を  
続けてきました。が……



でも……、  
なぜこんなに  
親切にして  
くれるんですか？



目が不自由で  
たいへん  
がんばって  
ね。

はい……。  
わたしたちに、  
仕事を  
くださった  
早川さんに  
感謝して  
います。



わたしは  
あのころの  
感謝の気持ちを  
みなさんにお返しして  
いるんですよ。

今のわたしが  
あるのも、  
そのかたの  
おかげです  
……。



……幼いころ、  
井上さんという  
目の不自由な  
おばあさんに  
助けられた  
ことがあってね。



そして、わが  
家庭には  
やさしい妻と  
ひとりの娘が  
……。



また、わたしは  
幼いころ  
両親と別れ、  
関東大しん災では  
妻や子を  
失うなど、  
肉親の愛には  
苦勞を重ねました。  
そのかわり、  
自分で経営している  
育徳園保育所には  
かわいい子どもたちが  
百人近くわたしを  
したつて  
まつていてくれます。



その後、創業者  
早川徳次は引退し、  
昭和五十五年にこの世を去り、  
いま、シャープにはいない。  
しかし、かれの「他人より  
一歩先を行く新製品の開発」  
という精神は、いまもシャープに  
受けつがれ、電子レンジや  
電卓、電子手帳などの  
すぐれた製品に  
生かされている。





常に時代を先どりして  
きたシャープ。その最新技術は今、  
かへかけ液晶テレビや  
音声ワープロ、テレビ電話  
などの開発に  
おけられている。  
これらの夢の製品が  
わたしたちのまわりに現れる  
日も、すぐそこまで  
きている……。

●かへかけ液晶テレビ  
超うす型テレビで  
かへにもかけられる。



●テレビ電話

相手のすがたを見な  
がら、電話できる。



●音声ワープロ

ワープロにおかって話す  
だけで、声が文字になっ  
て出てくる。



SHARP

